

牟礼 道の駅地域振興施設(仮称)整備事業

基本設計概要

平成 18 年 6 月

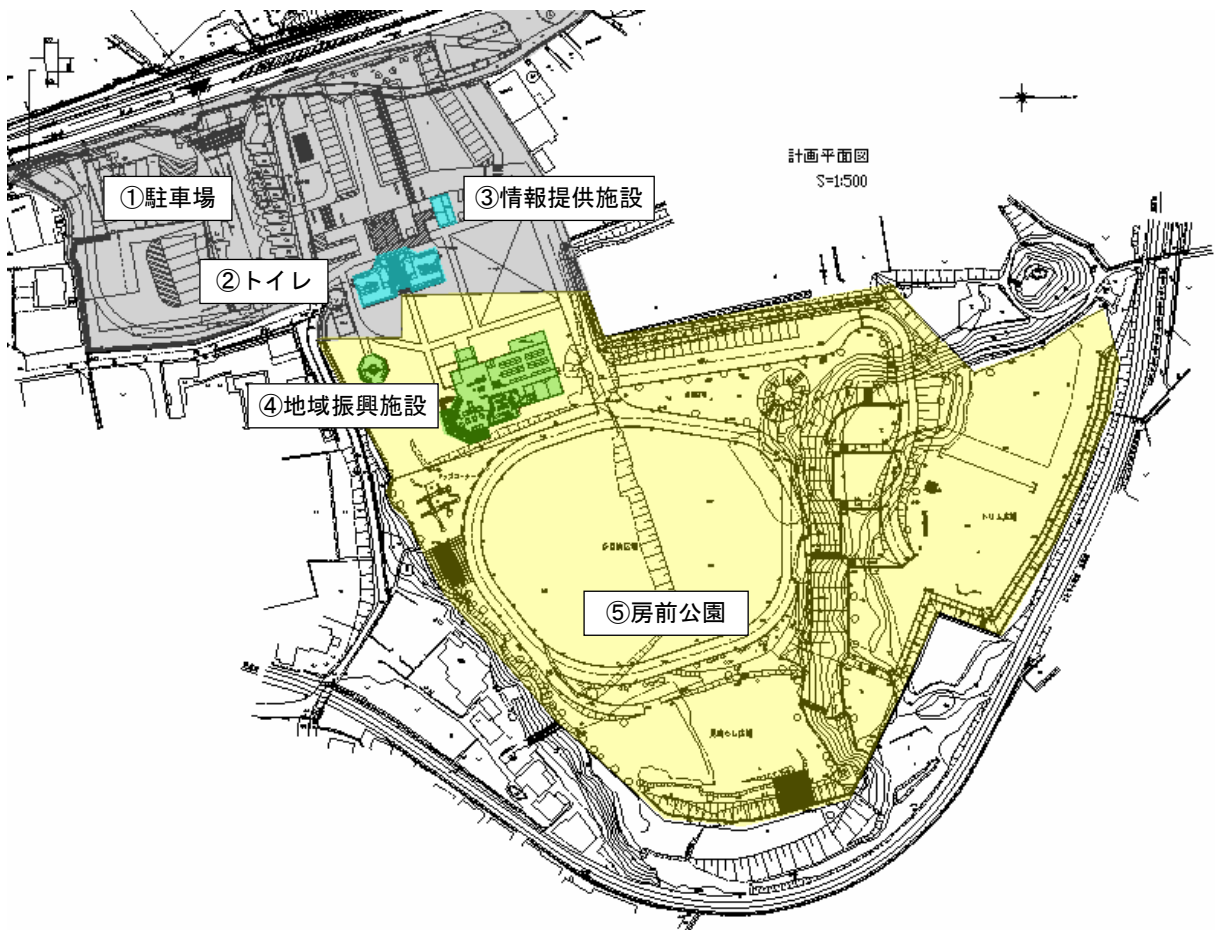
1 整備基本計画

1-1(1) 施設の用途・規模

ここでは、道の駅のオープンに向け、国土交通省および高松市が整備する事業の役割分担を明らかにし、施設内容に応じた事業計画と立案ならびに概算事業費の算定を行う。

<整備分担>

- ①駐車場..... 国土交通省香川河川国道事務所 (大型 13 台・普通車 47 台・身障者用 2 台)
- ②トイレ..... //
- ③情報提供施設..... //
- ④地域振興施設..... 高松市産業部観光課
- ⑤房前公園..... 高松市都市開発部公園緑地課



上記の内、道の駅は①～④であり、
①～③は、平成 19 年 4 月
④地域振興施設は、平成 19 年 6 月
⑤は、平成 21 年度までに整備

地域振興施設の設計コンセプト

● 物販施設設計基本コンセプト

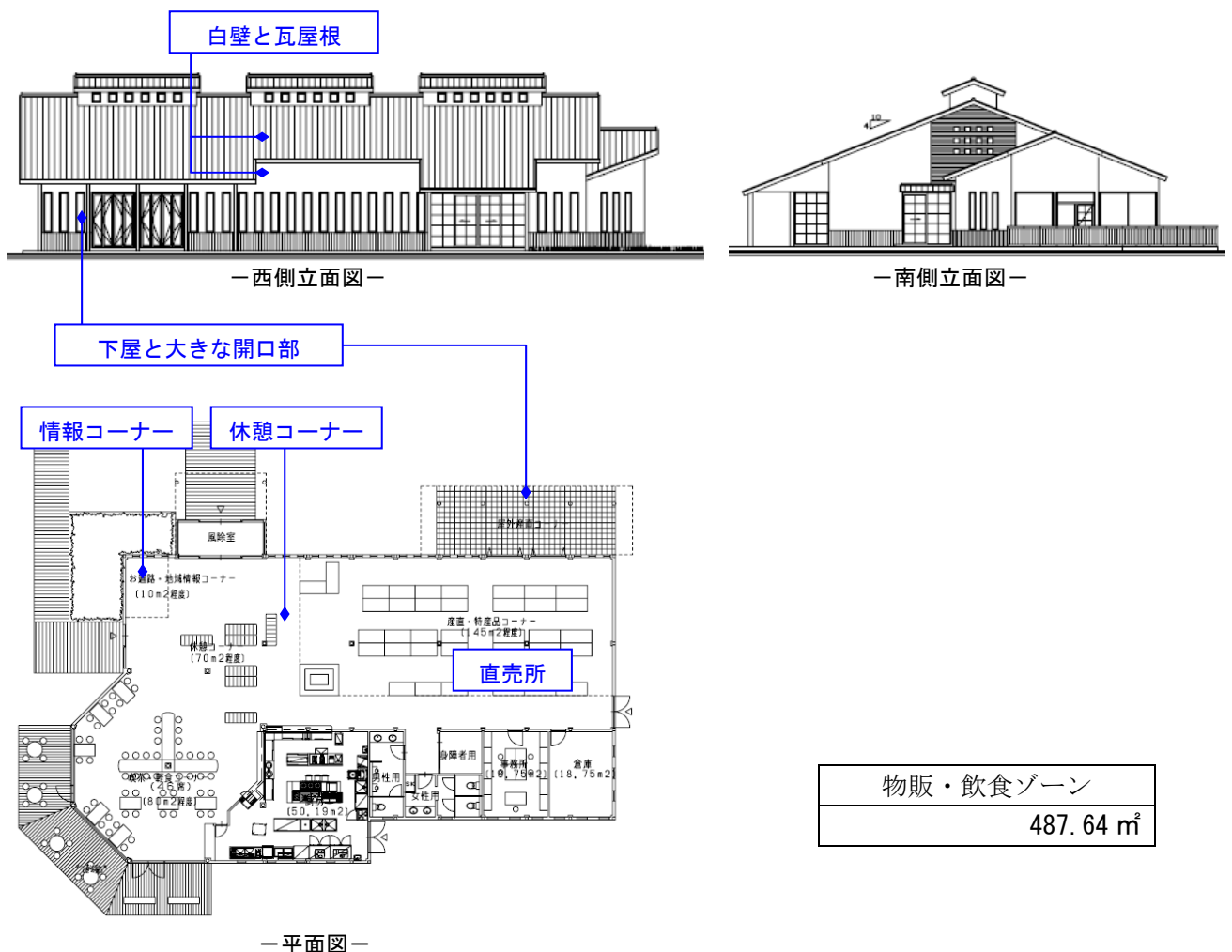
旧牟礼町は、町民憲章にも「美しい自然，すぐれた文化や伝統をもちたて，ゆかしい町にしましょう」とあり，自然や芸術に親しみ，生活にうるおいを人々に持たせることをモットーにしてきた。

また，20世紀を代表する世界的な彫刻家 故イサム・ノグチがアトリエを構えていた庵治石のふる里でもある。

計画対象地域は，志度湾や五剣山を間近に望む事ができ，85番八栗寺と，86番志度寺を結ぶ遍路道の中間にあり，四国遍路の父と称される「真念法師」がこの地から西に続く丘陵地で，遍路の途中で行き倒れたという，歴史的に印象性のある場所でもある。

今回の「道の駅」の総合構想においてもこれらの条件をふまえ，建物に関しては「文化の香りのする施設」を提供し，今回計画地を市民に愛される拠点とすべく，牟礼地区のランドマークとなる様な意匠デザインを採用し，ユニバーサルデザインの精神に基づき，老若男女の人々が，安全で安心して使える施設づくりを図る。

■ 牟礼独自の集落をイメージした歴史観のある和風なデザイン



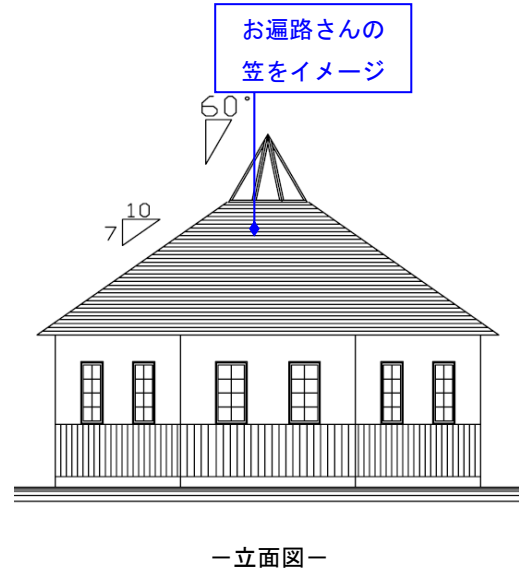
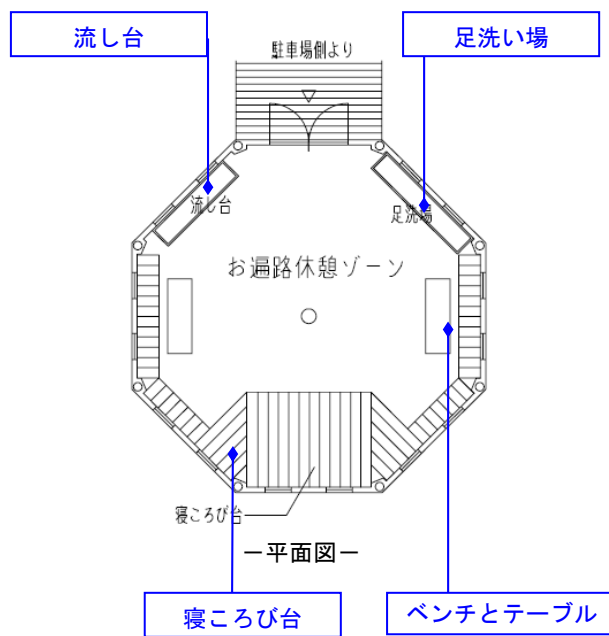
- ・ 旧来の牟礼町の集落を思い出させる、白壁と瓦屋根をイメージした歴史観のあるモノトーンの和風デザインを採用する。
- ・ 計画地の道の駅は、四国最大級の駐車容量を誇り、市外からも多くの利用客を見込むことができる。市外からの利用客をもてなし、地域住民も気軽に集うことができるサービス提供を目指す。
- ・ 施設全体の階高を高く設定し、自然光をふんだんに取り入れ、明るい「癒し空間」を演出し、地元の人々に愛され親しまれる施設造りを目指す。
- ・ 様々な人が無料でゆっくりと休憩できる休憩コーナーを整備する。
- ・ 駐車場の西側には下屋と大きく開く開口部を設置、地域振興施設前のイベント広場を有効に活用できるように配慮する。
- ・ 情報コーナーでは、地域独自の情報とこの地域にちなんだお遍路情報を発信する。

■ 施設イメージ



● お遍路休憩ゾーン的设计コンセプト

■ 八角形の東屋 お遍路さんの笠をイメージしたデザイン



お遍路休憩ゾーン
53.02 m ²


- ・ 計画対象地が遍路道に沿い、四国遍路の父と称される「真念法師」がこの地から西に続く丘陵地で、遍路の途中で行き倒れたという、歴史的に印象性のある場所である地域特性を活かして、お遍路さんがゆっくりと休憩できる東屋を整備する。
ただし、お遍路さんのみの利用に供するのではなく、一般の方も利用しやすい雰囲気作りを目指す。
- ・ 建築デザインは「お遍路さんの笠」をイメージして、デフォルメした角錐型の屋根を採用する。
- ・ 足を伸ばして寝ころび、仮眠することができる「寝ころび台」を整備する。
- ・ 足洗い場と流し台を整備する。
- ・ ベンチとテーブルを整備する。

1-(2) 施設整備費

地域振興施設整備概算事業費

単位 千円

区分	18年度	19年度	合計
工事請負費（建設工事費・設備費）	31,000	100,000	131,000
備品購入費	7,000		7,000
委託料（実施設計）	5,000		5,000
合計	43,000	100,000	143,000

 部分は、起債対象

財源内訳

単位 千円

区分	18年度	19年度	合計
一般財源	16,000	25,000	41,000
起債（一般単独事業の地方債）	27,000	75,000	102,000
合計	43,000	100,000	143,000